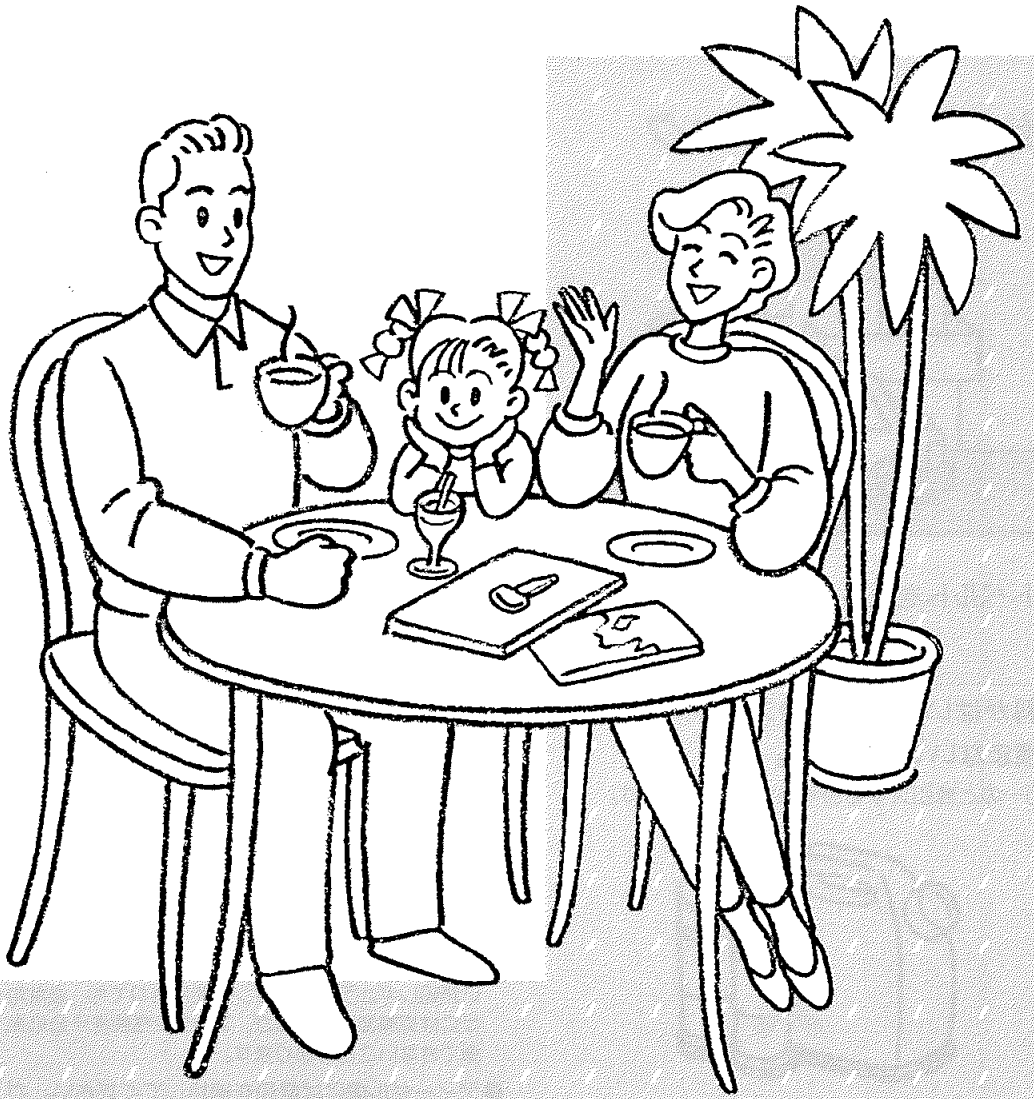
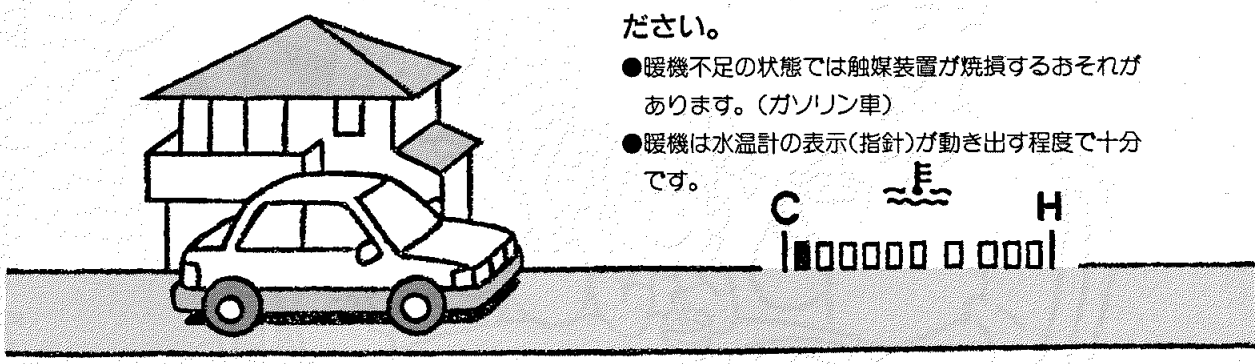
1 必読！これだけは知っておきましょう



お出かけ前のチェック …… 8
お子さまを乗せるときの気くばり …… 10
安全・快適ドライブのために …… 12
走行中、異常に気づいたら …… 14
駐停車するときは …… 15
オートマチック車の正しい運転のしかた …… 16
こんな点にも注意を …… 22
ターボ車の取り扱いチェックポイント …… 24

無断複製禁止

お出かけ前のチェック



水温計の表示(指針)が動き出すまでは、極端にアクセルペダルをあおらないでください。

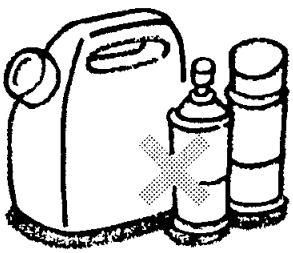
●暖機不足の状態では触媒装置が焼損するおそれがあります。(ガソリン車)

●暖機は水温計の表示(指針)が動き出す程度で十分です。

シートベルトを正しく着用してください。

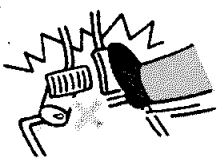
燃料がはいった容器やスプレー缶などは積まないでください。

●万一のとき引火するおそれがあり危険です。



運転席足元に物を置かないでください。

●空缶などの物を置くとブレーキペダルの下にはさまりブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなるなどのおそれがあり危険です。



指定以外の燃料を補給しないでください。

●ガソリン車には無鉛ガソリンを補給してください。有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油を補給すると、エンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

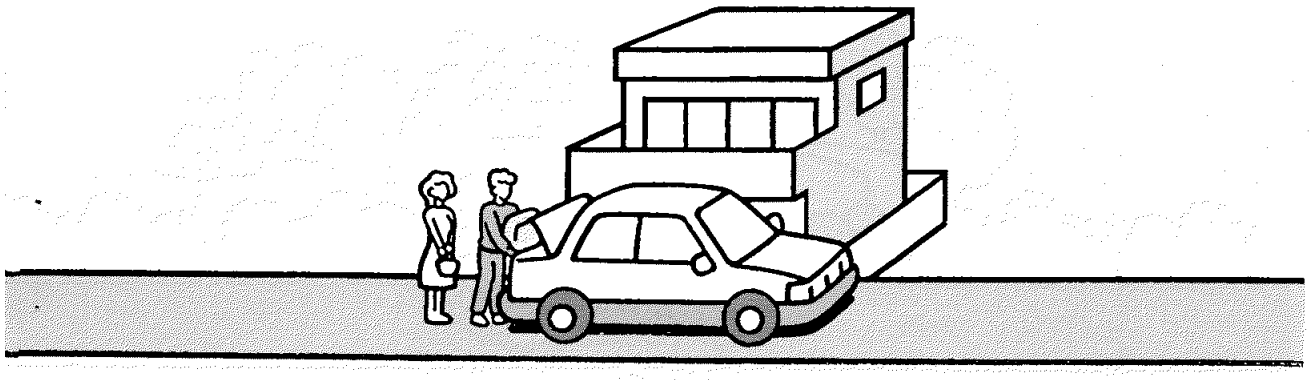
3000車、2500車は無鉛プレミアムガソリン(無鉛ハイオク)仕様車です。ガソリンは無鉛プレミアムガソリンを使用してください。
万一、無鉛プレミアムガソリンが入手できないときに無鉛レギュラーガソリンを使用されても、通常走行には支障ありませんが、エンジン性能を十分に発揮できないことがあります。

●ディーゼル車には軽油を補給してください。ガソリンや灯油を補給するとエンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

車庫内ではエンジンをかけたままにしないでください。

●換気の不十分な車庫内では排気ガスによる中毒のおそれがあり危険です。

無断複製禁止

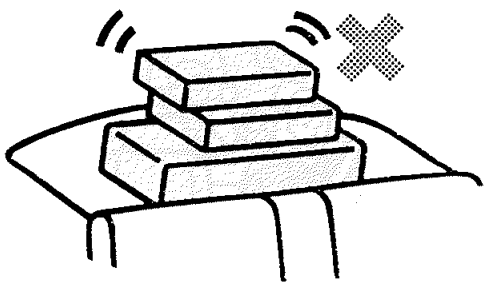


次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- ●いつもと違う音や臭いや振動がするとき
- ●ブレーキ液が不足しているとき
- ●地面に油の漏れたあとが残っているとき

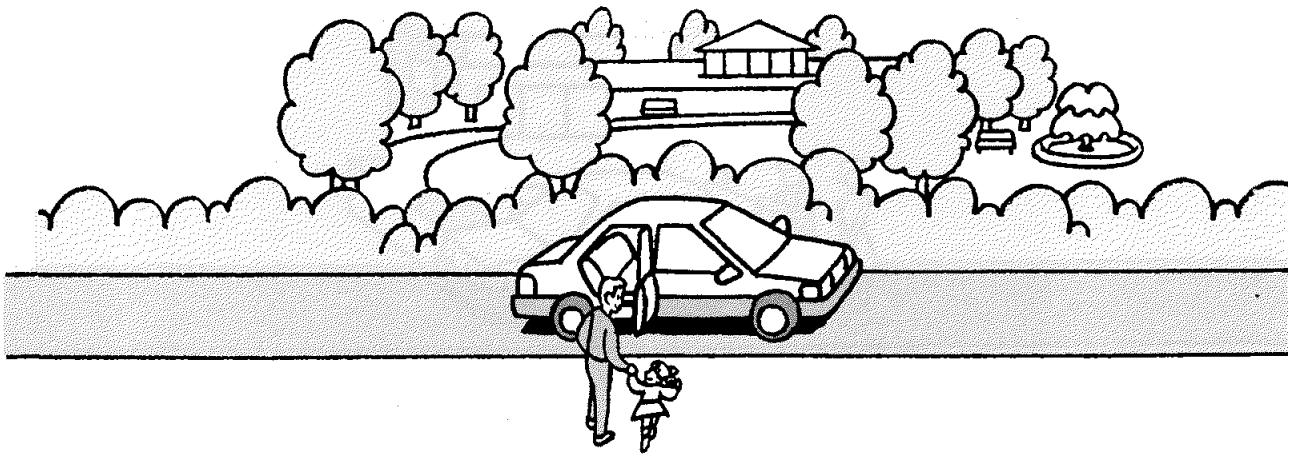
リヤシートやパッケージトレイに荷物を積み重ねないでください。

- ●ブレーキをかけたときに荷物が移動し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ●背もたれ後方のパッケージトレイの上に荷物を置かないでください。急なブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、ケガをするおそれがあり危険です。



無断複製禁止

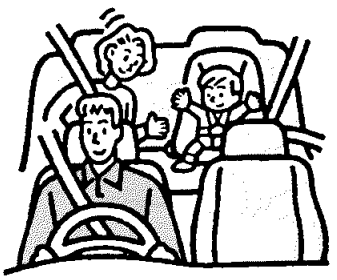
お子さまを乗せるときの気くばり



お子さまはリヤシートにすわらせてください。

●助手席ではお子さまの動作が気になり運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置にふれて思いがけない事故につながるおそれがあります。また、万一の事故の場合、リヤシートの方が安全と言われています。

●チャイルドプロテクターをお使いください。
（27ページ参照）



お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。

●ひざの上でお子さまを抱いていても、衝突したとき十分に支えることができずお子さまがケガをするおそれがあり危険です。

●リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。

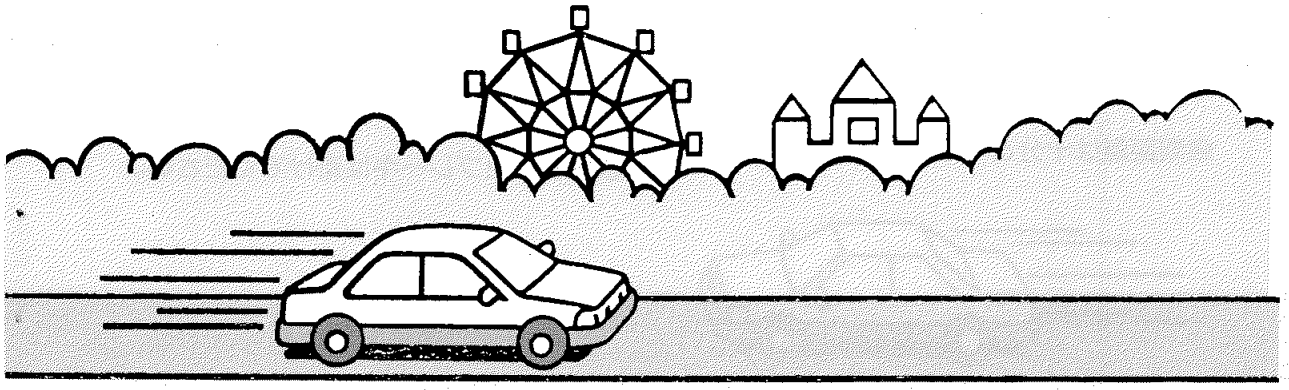
●シートベルトが首やあごに当たる場合や、腰骨にかからないような小さなお子さまはチャイルドシート、ジュニアシートを使用してください。通常のシートベルトでは衝突のとき腹部などに強い圧迫を受けケガをするおそれがあり危険です。また、ひとりすわりのできない小さなお子さまはベビーシートを使用してください。なお、ベビーシートやチャイルドシート、ジュニアシートについてはトヨタ販売店にご相談ください。

〈選択の目安〉

	体重(kg)	身長(cm)	参考年齢
ベビーシート	～10未満	75以下	～12カ月
チャイルドシート	7～18未満	105以下	6カ月～4才
ジュニアシート	15～32以下	135以下	4才～10才

●やむをえず、助手席に乗せるときも、必ずシートベルトを着用するかベビーシートやチャイルドシート、ジュニアシートを使用してください。

無断複製禁止



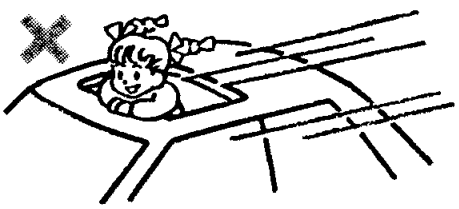
ドア、ウインドゥ、ルーフなどはお子さまに操作させないでください。

●閉めるとき手や頭などをはさんだり思わぬケガをするおそれがあり危険です。

●ウインドゥロックスイッチもあわせてお使いください。（31ページ参照）

窓やルーフなどから手や顔を出さないでください。

●車外の物などに当たったり、急ブレーキ時に思わぬケガをするおそれがあり危険です。



車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。

●炎天下の車内は高温となり熱射病などのおそれがあり危険です。

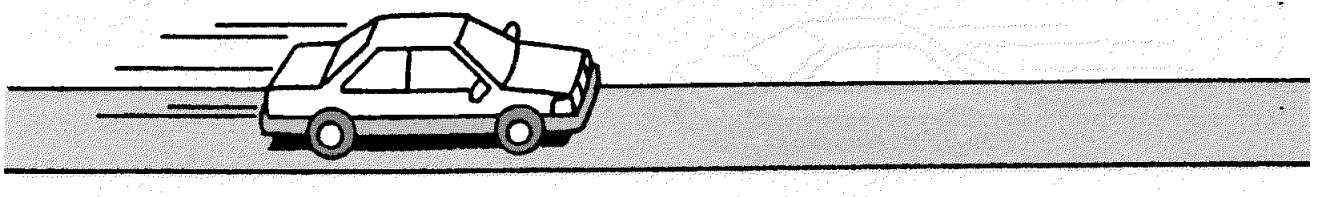
●いたずらなどにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

無断複製禁止

安全・快適ドライブのために

車間距離は十分とってください。

急発進、急ブレーキは避けてください。



走行中はエンジンを切らないでください。

●エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

●キーをLOCK位置にするとキーが抜けることがあります。キーが抜けるとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあります。

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●オイル潤滑不良を起こし、パワーステアリングポンプを損傷するおそれがあります。

下り坂ではエンジンブレーキを併用してください。

●ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力のことで、低速ギヤにいれるほどよく効きます。1速ずつシフトダウンしてください。

ぬれた路面や積雪路、凍結路などのすべりやすい路面ではとくに慎重に走行してください。

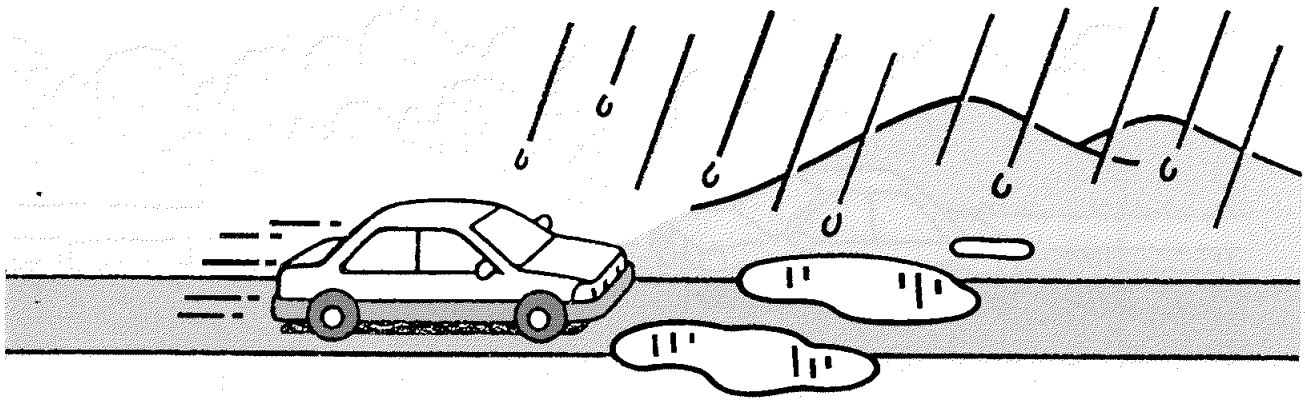
●スピードをひかえめに運転し、急激なエンジンブレーキは避けてください。

●クルーズコントロールは使用しないでください。

●雪道走行の項目もご覧ください。
（140ページ参照）

とくに雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいためご注意ください。

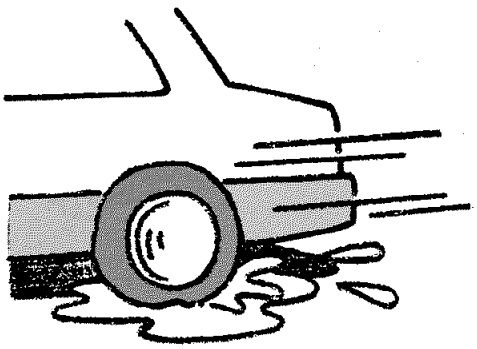
無断複製禁止



洗車後や水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

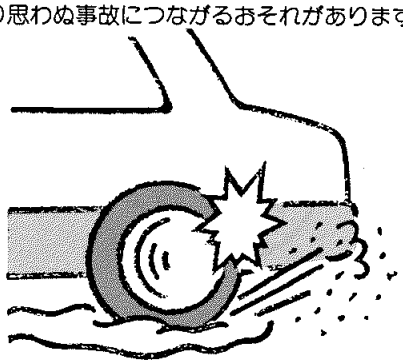
●効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。

●ぬれたブレーキは効きが悪かったり、また、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられるおそれがあります。



スタック（立ち往生）したときなどタイヤを高速で回転させないでください。

●タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。

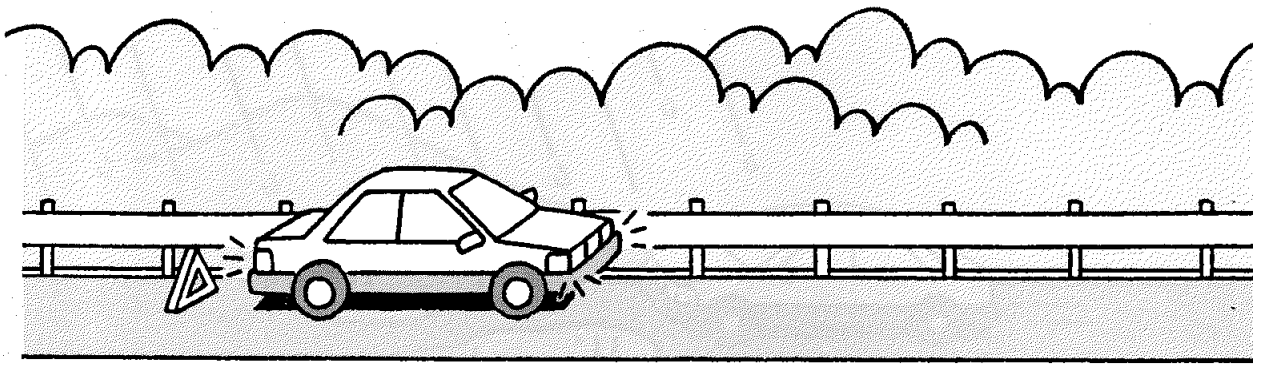


ブレーキペダルに足をのせたまま走行しないでください。

●ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

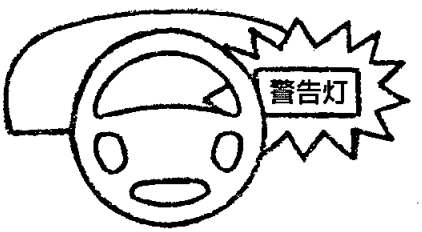
無断複製禁止

走行中、異常に気づいたら



警告灯が点灯したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。

●点灯したまま走行すると思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。（147ページ参照）



走行中にパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。

●ハンドルをしっかり持ち徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。

●急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

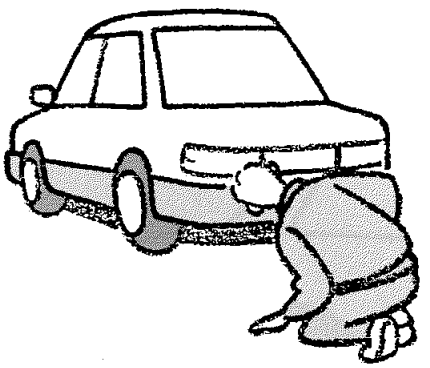
アドバイス

次のようなときはパンクやバーストが考えられます。

- ハンドルがとられるとき
- 異常な振動があるとき
- 車両が異常に傾いたとき

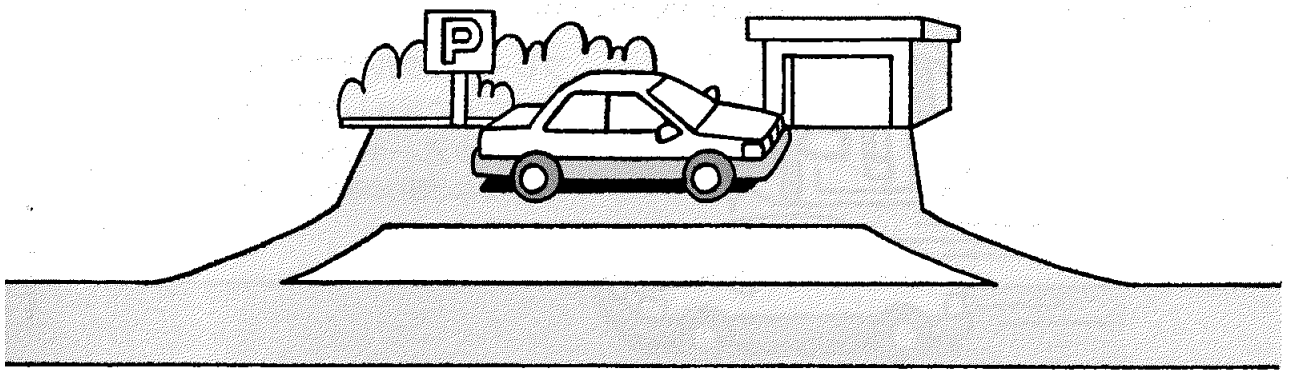
車体床下に強い衝撃を受けたら、すぐに安全な場所に車を止めて下まわりを点検してください。

●ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。漏れや損傷などが見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店などにご連絡ください。



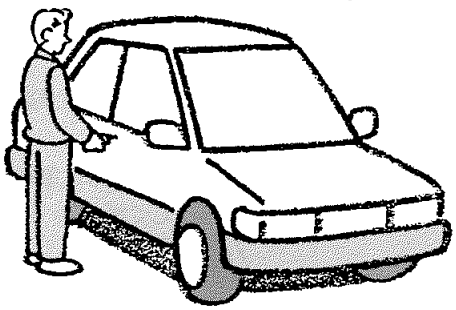
無断複製禁止

駐停車するときは



車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ必ずエンジンを止め施錠してください。

●無人で車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。また、施錠していても車内に貴重品を置いたままにしないでください。

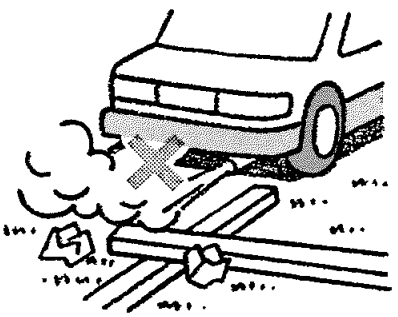


可燃物付近に車を止めたりしないでください。

●車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると火災になるおそれがあり危険です。

●木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を30㎝以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。

●枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。



仮眠するときは、必ずエンジンを止めてください。

●無意識にチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあり危険です。

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。

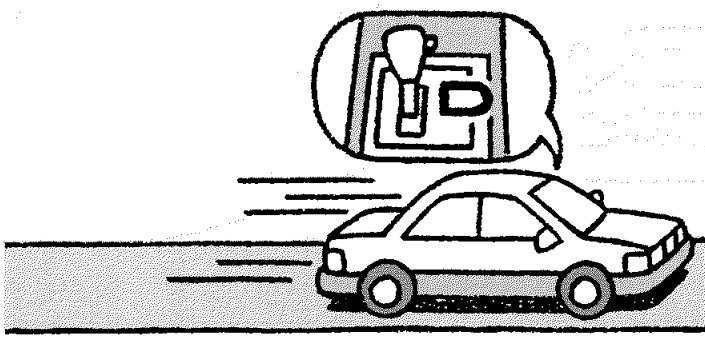
●坂道を利用しての移動は思わぬ事故につながるおそれがあります。

●エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

無断複製禁止

オートマチック車の正しい運転のしかた

69ページの「オートマチックトランスミッション」もあわせてお読みください。



ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。

●左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

オートマチック車の特性

■クリープ現象

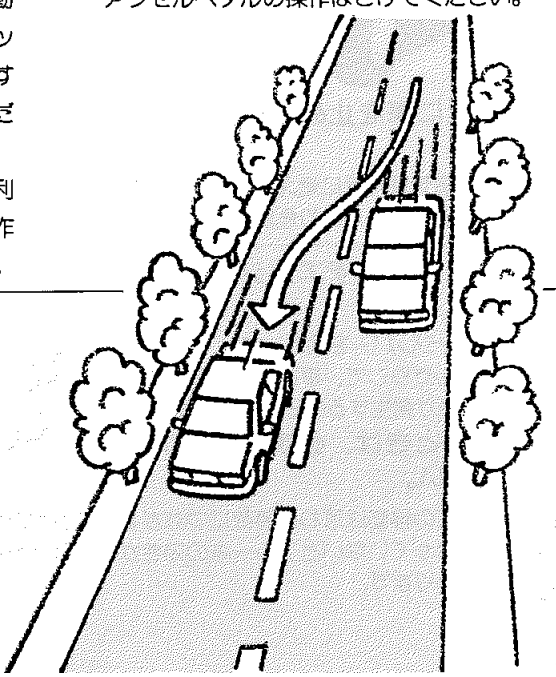
エンジンがかかっているとき、チェンジレバーがⓅⓃ以外の位置にあると、動力がつながった状態になりアクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をいいます。

- 停車中は、平坦路であっても車が動かないように、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がり（アイドルアップ）、クリープ現象が強くなることがありますので、ブレーキペダルはしっかりと踏んでください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。

■キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。これをキックダウンといいます。

- 追いこし時の急加速や高速道路での合流が楽に行えます。
- すべりやすい路面やカーブ走行中では、急激なアクセルペダルの操作はさけてください。



無断複製禁止

運転のしかた

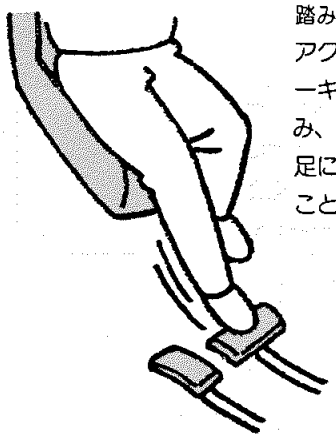
エンジンをかけるまえに

1
正しい運転姿勢をとる。

ペダルが確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるように、シートの位置を調整してください。

2
アクセルペダルの位置を確認。

3
ブレーキペダルの位置を右足で確認。



踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認し、足におぼえさせておくことが重要です。

エンジン始動

詳しくは67ページの「エンジンのかけ方」を参照してください。

1
パーキングブレーキを確認。

2
Ⓟの位置を目で確認。

Ⓝの位置でも始動できますが、**安全のため車輪が固定されるⓅの位置**で行ってください。

3
ブレーキペダルを右足で踏む。

4
エンジン始動。

無断複製禁止

発　進

1
ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま。

チェンジレバーをⒹやⓇにいれると、クリープ現象により、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。発進時のレバー操作は、ブレーキペダルをしっかり踏み、車が動かないようにして行ってください。
エンジン始動直後やエアコン作動時などアイドルアップしているときは、車が動こうとする力がとくに強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

2
チェンジレバーを前進はⒹ、後退はⓇにいれる。

注　意

レバー操作は、絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

3
チェンジレバーの位置を目で確認。

4
パーキングブレーキをもどす。

5
ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくり踏み加速。

マニュアル車では、発進時のスピード調節を半クラッチ操作とアクセル操作を併用して行いますが、オートマチック車では、アクセル操作のみで行いますのでアクセル操作は慎重に行ってください。

■急な坂道の発進

チェンジレバーの位置を目で確認したら、
- まずアクセルペダルをゆっくり踏み、
- 車が動き出す感触を確認してから、
- パーキングブレーキをもどし発進。

無断複製禁止

運転のしかた

走　行

通常走行

チェンジレバーをⒹのまま走行。

アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速ができます。

急加速

アクセルペダルをいっぱいに踏み込む。

キックダウンし、急加速できます。

■上り坂をなめらかに走るには

上り坂でスピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、意に反してキックダウンし、急にエンジン回転が上がることがあります。このようなときは、**あらかじめ❷にしておく**と、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

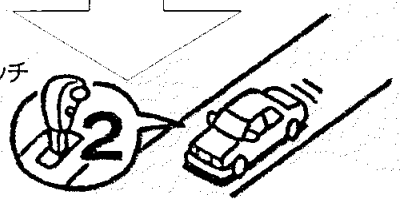
下り坂走行

エンジンブレーキを併用

下り坂をⒹのまま走行すると、エンジンブレーキの効きが弱くスピードが出すぎてしまうことがあります。このようなときに、**フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなる**おそれがあります。長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。

チェンジレバーを❷にいれて、エンジンブレーキを使います。

O／DスイッチをOFFにすることによっても



軽いエンジンブレーキが得られます。高速道路の長い下り坂などで使うと有効です。

急な下り坂

より強いエンジンブレーキが必要な場合はⒷにいれる。

各シフト位置での速度限界

エンジンを過回転させないために、各シフト位置での速度が下表の数値をこえないようにしてください。

（単位：km／h）

シフト位置＼エンジン型式	2JZ-GE	1JZ-GTE	1JZ-GE	1G-FE	4S-FE	2L-TE
L	65	70	55	60	65	50
2	110	120	105	110	110	90

注　意

走行中はⓃにしないでください。チェンジレバーをⓃにすると、**エンジンブレーキがまったく効かない**ため、思わぬ事故につながるおそれがあります。またⓃにしたままで走行するとトランスミッションの故障の原因となるおそれがあります。

無断複製禁止

停　車

1

Ⓓのままブレーキペダルをしっかり踏んでおく。

エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリープ現象が強くなりますので、車が動き出さないように、とくに注意してください。

2

必要に応じてパーキングブレーキをかける。

急な上り坂での停車はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。
ブレーキペダルを踏み、しっかりとパーキングブレーキをかけてください。

停車時間が長くなりそうなときは、チェンジレバーをⓃにいれる。

■停車中の空ふかしは禁物

万一、ⓅⓃ以外にはいっていると思わぬ急発進の原因になります。

■停車後の再発進

チェンジレバーがⒹの位置にあることをしっかり確認してから、発進してください。

駐　車

1

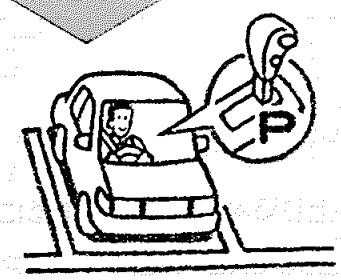
車を完全に止める。

2

ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキを確実にかける。

3

チェンジレバーをⓅにいれる。



Ⓟでは車輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。駐車時には、必ずチェンジレバーがⓅの位置にあることを確認してください。

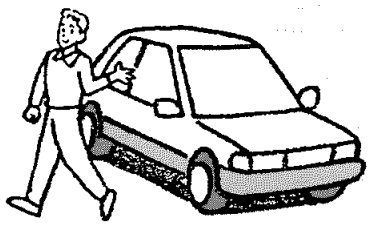
4

エンジンを切る。

車を離れるときは必ずエンジンを切ってください。
エンジンをかけたままにしておくと、万一、チェンジレバーがⓅ以外にはいっていた場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに、誤ってアクセルペダルを踏み急発進するおそれがあります。

無断複製禁止

●車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしましょう。
●後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるよう注意してください。
●少し後退したあとなどはⓇにいれたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐⓃにもどすよう習慣づけましょう。
●切り返しなどでⒹからⓇ、ⓇからⒹと何度もレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。また、シフト位置も忘れずに確認してください。
●アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でⒹのままアクセルをふかしながら止まってはいけません。トランスミッションが過熱し、故障の原因になります。
●車輪が完全に止まらないうちに、チェンジレバーをⓅにいれるのはやめてください。無理な力がかかり、トランスミッションをいためることがあります。



シフトロックシステム

よく理解して正しい操作にお役立てください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でなければⓅからレバー操作できません。

●エンジンスイッチが、ACCまたはLOCKのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
●チェンジレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

Ⓟ以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。

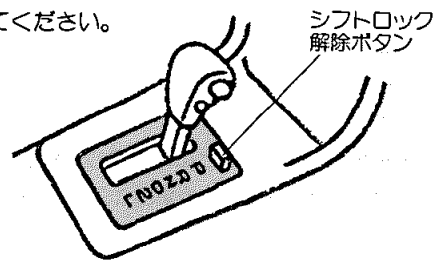
●エンジンスイッチからキーを抜くときは、チェンジレバーをⓅにいれてください。
（Ⓟ以外ではキーをACCからLOCKにまわせません。）

Ⓡにいれるとブザーが鳴ります。

●ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。
●車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。

万一、Ⓟからレバー操作できないときは

●ブレーキペダルを踏んだ状態で、シフトロック解除ボタンを押すとレバー操作できます。
●シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



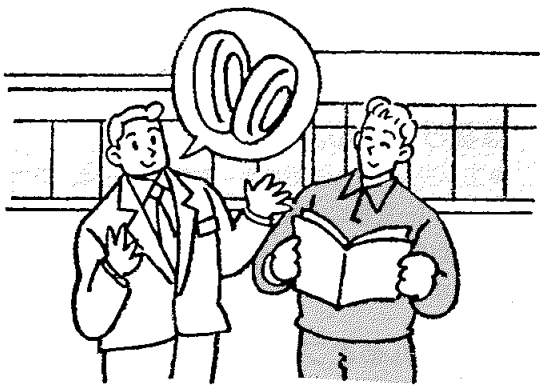
無断複製禁止

こんな点にも注意を

違法改造は絶対にしないでください。

●車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●トヨタが運輸省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。



●SRSエアバッグ付き車は、ハンドルの取りはずしや他の車両への取りつけは絶対にしないでください。SRSエアバッグを不適切にあつかうと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみケガをするおそれがあり危険です。

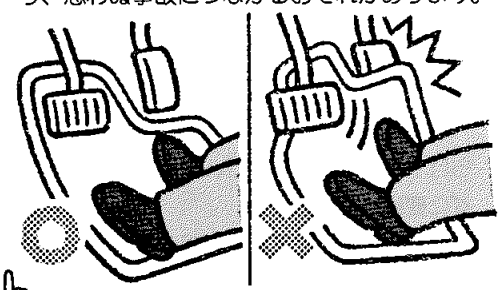
●次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・タイヤ、ディスクホイール、ホイール取りつけナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると走行に悪影響をおよぼしたり違法改造になることがあります。

・電装品、無線機などの取りつけ、取りはずし。
故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

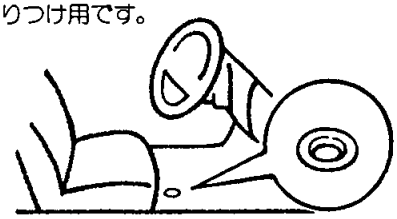
車に合わないフロアマットは使用しないでください。

●フロアマットはアクセルペダルに引っかからないよう、車に合ったものを正しく敷いてください。また、ずれないよう固定クリップなどで固定してください。アクセルペダルをおおったり、重ねて敷くとアクセル操作のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



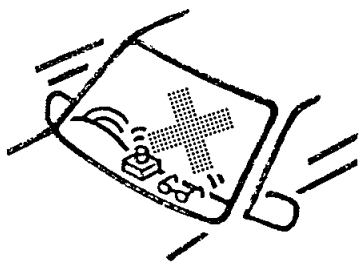
アドバイス

カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取りつけ用です。



インストルメントパネルやダッシュボードの上に物を置いたまま走行しないでください。

●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いて安全運転のさまたげになるおそれがあります。また、万一の事故の場合には、ケガの原因となるおそれがあります。

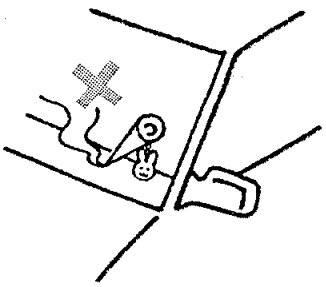


無断複製禁止

●灰皿を使用したあとは、マッチ、タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。火災になるおそれがあり危険です。

●ラジエーターや補助タンクが熱いときは、キャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出し危険です。

●窓ガラスなどには吸盤をつけないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災になるおそれがあり危険です。



●ハンドフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は走行中に使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

●クラッチペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行わないでください。
クラッチが早く摩耗したり、過熱し思わぬ事故につながるおそれがあります。

無断複製禁止

ターボ車の取り扱いチェックポイント

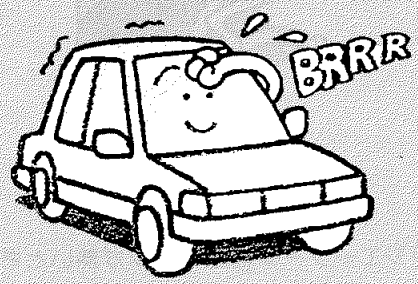
ターボ装置は、エンジンに大量の空気を過給してエンジンからより大きな馬力を引き出すもので、非常に精密に作られています。
ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

1 高速走行・登坂走行直後はエンジンを止めないでください。

●必ずアイドル運転を行い、ターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。
アイドル運転を行わないとターボ装置の故障の原因になります。

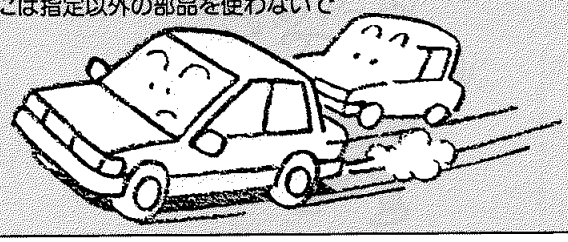
エンジン停止前のアイドル運転時間

運転状況		アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行		必要なし
高速走行	約80km/h定速	約20秒
	約100km/h定速	約1分
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびレース場など100km/h以上の連続走行		約2分



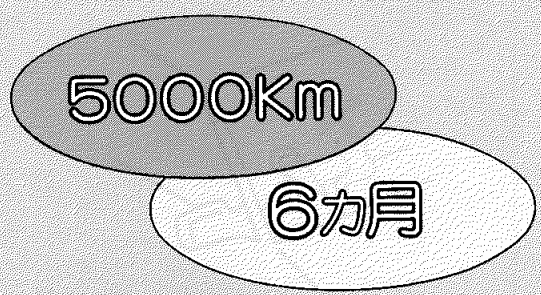
2 エンジンが冷えているときは空ふかしや急加速は絶対に行わないでください。

●マフラー、プラグ(ガソリン車のみ)などには指定以外の部品を使わないでください。ターボ装置の故障の原因になります。



3 定期的なオイル交換を必ず行ってください。

●エンジンオイルは必ず5,000kmごと(ただし6カ月をこえないこと)オイルフィルターは必ず10,000kmごとに交換してください。
ターボ装置は、毎分10数万回転におよぶ高回転、700℃以上の高温下で使われ、その潤滑と冷却はエンジンオイルで行われています。したがって定められた期間でエンジンオイル、オイルフィルターを交換しないと、劣化したエンジンオイルにより、ターボ軸受部の固着、異音の発生など故障の原因となります。



無断複製禁止